明るい小矢部
No.217
2023年8.9月号
6500部発行
発行
日本共産党
小矢部市委員会
小矢部市七社 245
砂田喜昭
TEL 67-4322
FAX 67-4842
日本共産党発行 しんぶん赤旗 日刊●月3497円 日曜版●月930円

6月議会　上田由美子市議の一般質問

知られていない特別障害者手当

要介護４・５の 在宅高齢者が該当する場合も

6月議会で質問する上田市議=6月23日

特別障害者手当は、精神や身体に著しく重い障害があり常時特別な介護が必要な人（在宅で２０歳以上。所得制限あり）に月２万７３５０円を支給する国の制度です。障害者手帳がなくても該当するケースもあります。

【上田市議】私が会ったご家族は、在宅で介護しているのに、特別障害者手当を知らなかった。条件のある人が受けられるように、市として広く知らせること。

【民生部長】市の広報に載せるなど、広く市民に周知できるよう努めたい

障害者が福祉作業所へ通勤

「チョイソコおやべ」利用に補助を

【上田市議】障害者作業所への通勤にメルバスを利用していた人やその家族から、AIオンデマンド交通「チョイソコおやべ」になると運賃が大幅に増える、改善してほしいという声が上がっている。9時台の出勤時、16時台の退勤時にメルバスは運行されないので、「チョイソコおやべ」しかない。ところがメルバスの運賃（月500円）が、「チョイソコおやべ」では1日往復で400円、月20日で8000円になる。1か月の給料が1万円前後の人もあり、給料の大部分が通勤費に消える。

障害者にとって作業所は、人とつながり、生活のリズムを作り、仕事をする生きがいを持つための大切な日常である。この機会が減ったら、ひきこもりにもつながる可能性がある。

【民生部長】本市では、障害者の通所経費の2分の1（上限額2万円／年）を補助しているが、自己負担額の増加により通所意欲低下が懸念されるため、利便性向上も考慮しつつ、よりよい支援のあり方を検討したい。

（上田市議の質問の続きは二面に）

チョイソコおやべ

利用希望者は事前に登録を

AIオンデマンド交通「チョイソコおやべ」を利用する人は事前に市に登録するする必要があります。登録に年齢制限はありません。障害者や75歳以上の人は、自宅を停留所として無料で登録できます。一時間前に電話予約すれば乗車できます。

「チョイソコおやべ」を利用した75歳以上の市民から、「家まで来てもらえるので、通院などに便利でとても助かっている。往復400円（後期高齢者等の場合、一般の人は1乗車400円）で行けるのも良い。しかし行先は停留所に限られているので、小矢部郵便局にも停留所を作ってほしい」という声を聞きました。上田市議の全員協議会（5月22日）質問に、生活環境課長は「小矢部郵便局にも事業所停留所の要望調査をしている」と答えました。

高齢者補聴器購入助成

申請者 大幅増 市 「予算の補正を検討」

4月から市の「補聴器購入費補助」制度が、拡充（所得制限撤廃・2万円だった補助額を3万円にアップ）されたことに伴って、今年度は現在のところ補助申請者が24件です。昨年1年間の交付実績が4名でしたので、格段の利用状況となっています。

上田市議は6月議会全員協議会で予算の拡充を求め、健康福祉課長は「高齢者にとって大事な助成なので、今後予算の補正を検討」と答えました。

2023年

原水爆禁止国民平和大行進

石動駅前商店街でアピールする平和行進団＝ 6月9日

2023年原水爆禁止国民平和大行進が6月9日、10日、小矢部市内で核兵器禁止を訴えました。

9日は、広島まで歩き続ける「通し行進者」山内金久さんを囲んで、南砺市安居、藪波スポーツセンターを経て、石動市街地に到着しました。市役所玄関では、桜井市長（代理）、義浦議長（代理）が出迎え、市長、議長からの「核兵器禁止を求めるペナント」を託しました。

10日は、高校生も参加し、市役所から、商工会館前まで「今すぐ核兵器の廃絶を」「戦争ではなく平和の準備を」の2本の横断幕を掲げて行進。倶利伽羅峠で石川県行進団に引き継ぎました。

ひろば

フィンランドに2年間滞在し、二人の子をフィンランドの小学校と中学校で育てた方の話を聞いた▼OECDという国際機関の学力調査で、子どもの学力世界1位を誇ることで有名なフィンランド。国際的にもその教育内容や方法が注目を浴び、テレビでも放映されていたことがある。人口500万人台の国で、「一人ひとりの国民を大事な国の構成員として育てていきたい」という教育相の熱い主張が印象に残った▼移民だろうがフィンランド人だろうが、どの子も教科書も教材費も給食費もすべて無料。20人ほどのクラスに担任が二人、実質10人のクラスに補助の先生もつくという徹底した少人数学級で、子ども一人ひとりの実態に合わせた学習が行われる。6歳の我が子が「自分で決めるから、お母さん決めないで」と主張したという。子どもの権利尊重教育の成果であろう▼フィンランドでは競争なし、ジャッジ（評価）なし、宿題なしで、でも結果として国際的な評価では学力1位を獲得している。ひるがえって日本では学校の統廃合が叫ばれ、小規模校では競争心がなくて子どもが育たないという論が聞かれる。社会全体の『競争社会』を反映して、日本では教育＝競争であり、児童生徒数は少なくなっているのに、不登校数は24万人（昨年小中）と毎年実数が増えている。「どうして競争が必要なの？」というフィンランドでの素朴な疑問と真逆だ▼子どもが自らの生き方を考え、決められるように、ひとりの主権者として大事に育てることの根本が問い直されなければならない。